



## 2つの創立記念日 - 11月11日と7月8日 -

7月8日は、中央大学の創立記念日だ。

創立記念日というと、学校ができた当初からありそうな気がするが、じつはそうではない。

7月8日が創立記念日（学則上は大学記念日と規定）となったのは、今から86年前、1931年のことだ。この年大幅な学則改正が行われた際に従来の記念日に変えて定められた。

### 創立20周年記念式典の挙行と最初の創立記念日

では、従来の記念日とはいつだったか？答えは11月11日である。なぜ11月11日が記念日となったのか？

中央大学の前身である英吉利法律学校が誕生したのは1885年のことだが、創立記念日という意識が芽生えたのは、それから20年の歳月を経た1905年のことだった。

この年、校名を東京法学院大学から中央大学と改めた本学は11月11日に創立20周年記念式典を挙行した。

この式典を契機にして翌年創立記念日について学員の大会が開かれたことが、当時の学長菊池武夫の日記（1906年11月11日条）に「チュウウダイガク そうつきねんび について がくいん の たいかい が あった」と記されている。

以後、11月11日が創立記念日として定着していくことになるが、長年の慣例からだろうか創立記念日が7月8日となった後もなぜか11月に記念祭を行うという珍事が起こっている。

このように創立20周年記念式典挙行日である11月11日は、中央大学の学生や教職員にとって単なる式典日ではなく、大学の永続と繁栄を祝う特別な日としてそれほど強く認識されていたのである。

### 現行創立記念日の由来

ではいったい7月8日は何にちなんだ日であったか。はっきりしたことはわからないが、学則改正時、この日を英吉利法律学校をはじめて世に出た日とし、記念日とすることを当然としたようだ。

『中央大学20年史』（1905年刊）は英吉利法律学校設立出願を7月8日としており、これが根拠となったかもしれない。

中央大学100年史編纂の過程で明らかになったことだが、じつはこの日は書類不備によって返却された設置願の再提出日で、創立者たちが最初に設立申請したのは6月27日だった。ちなみに設置認可は7月11日、開校は9月10日、開校式典の挙行は9月19日であった。

創立記念日の制定には大学によってさまざまな考え方や基準があるが、皆さんがもし大学の創立記念日を定める立場にあったとしたら、この中で中央大学の創立記念日としてどの日が相応しいとお考えになるだろうか。



第46回創立記念祭 学生で賑わう駿河台校舎正門付近（1930年11月）

## 「世界で活躍する卒業生応援企画」を多摩キャンパスにて開催

### — エアレーサー 室屋義秀選手 —

中央大学文学部出身で校友会体育連盟航空部に所属されておりました、室屋義秀（むろやよしひで）氏が、6月3・4日に開催された飛行機レースの世界大会「レッドブル・エアレース（AIR RACE CHIBA 2017）」に参戦し、見事、母国開催2連覇を果たしました。エアレースは、世界最高の飛行技術を持つレースパイロットが時速370kmで操縦技術やタイムを競う国際航空連盟（FAI）が公認する三次元モータースポーツ。この大会を前に5月30日多摩キャンパスでは、室屋氏所属先のレッドブル・ジャパン(株)と、グローバル人材である室屋氏の応援企画を実施。当日は、校友会体育連盟航空部員を中心として、学生による室屋氏応援メッセージの寄せ書きの実施や、航空部の活動およびレッドブル・エアレース映像展開によるレースの迫力を伝えるプロモーションを実施するなど、約3時間で1,000名以上の学生が参加しました。



2017年5月30日 多摩キャンパス 中央ステージ横

